

「音楽史」

～目と耳で学ぶ音楽史～

本題材で育成する資質・能力

表現力・コミュニケーション能力・情報活用能力

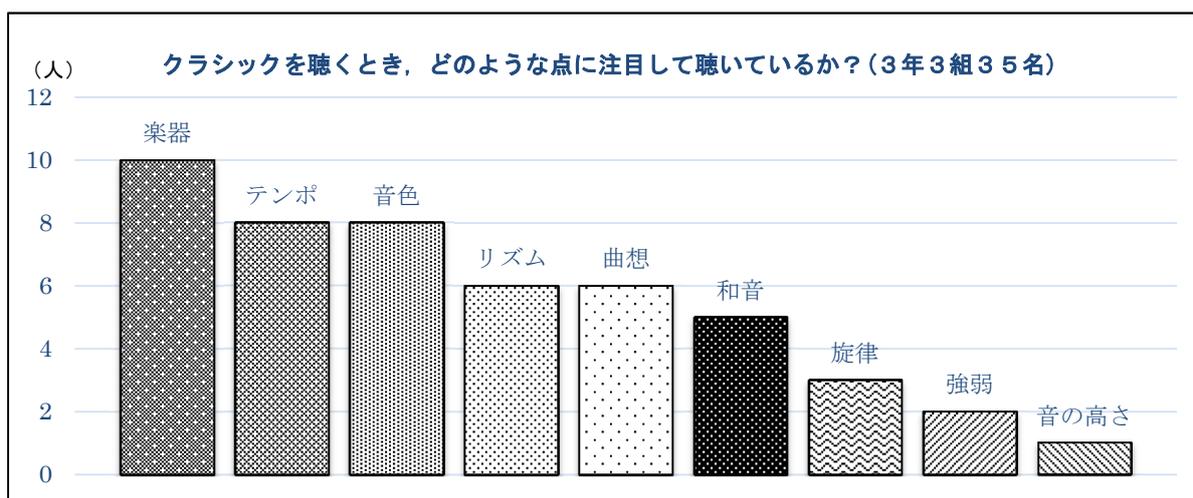
1 題材について

(1) 題材観

本題材では中学校学習指導要領（平成20年）音楽の第2学年及び第3学年「B 鑑賞」の指導事項「(1)イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」、また、[共通事項]のうち、音色、テクスチュアを扱う。西洋音楽史をバロック派、古典派、ロマン派、現代の4つに時代を区分し、それぞれの代表的な作曲家と有名な作品を教材として扱う。西洋音楽史は時代によって様々な点で変化を遂げた。使われる楽器は技術の進化とともに幅広くなる。テクスチュアも機能的なものから曖昧、そして無調へと変化する。これらの特徴を楽曲から聴きとって価値づけを行うことで指導事項「(1)ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」と関わらせる。音楽の特徴を知覚しながらその背景となる歴史を関連づけて理解し、音楽のよさや美しさを味わいながら価値づけを行う能力を高めることが期待できる。

(2) 生徒観

本クラスは音楽には積極的に取り組み、特に表現分野においてはクラスで合唱に一生懸命取り組む姿を見ることができた。ところが鑑賞学習には消極的で、「鑑賞の授業が好きですか？」という質問に対して肯定的評価と答えたのは65%だった。この結果は、これまでの鑑賞の授業が教師主体の受動的な形態であり、「音楽の聴き取り⇒情景を書く」というだけの単純作業であったことが原因であると考えられる。



主体的に鑑賞に取り組もうと思ったら、音楽の要素をより幅広く聴き捉えることが必要である。そこで鑑賞の授業におけるクラシック音楽を聴くときの観点に注目した。クラシックを聴くとき「楽器」については特に興味を持って聴いているが、「和音」という視点に注目している生徒が圧倒的に少ないことが分かった。音楽史を学ぶ上で和音すなわち「テクスチュア」について注目して聴き、時代を捉えることができる姿を目指す。

(3) 指導観

指導に当たっては、西洋音楽史を4つの時代に区分し、それぞれ「楽器」「テクスチャ」という2つの視点で時代背景による音楽の変遷・特徴を整理させる。整理した特徴を活用し、流れてくる音楽がどんな時代に作られたのかをCDジャケットと照らし合わせながら考える。CDジャケットは時代背景やその当時の歴史・文化を象徴するようなものを選び、時代と関わらせて理解させるために用いる。音楽を2つの視点で聴くことで時代背景をも想像することができることに気づかせることで、日常生活からクラシック音楽への関わり方を深めさせたい。

2 学校が育成を目指す資質・能力

本校が各授業を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力」である。しかしながら、その前提として、各授業において授業のねらいを確実に達成させることが必要である。授業のねらいを「生徒の主体的な学び」を通してより確実に達成させるため、本校では「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、小グループで考えを練り合わせ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後、全体へ発表させるというスタイルをとっている。このスタイルを、全教科で一斉に行い徹底させることで、ねらいを達成させると同時に「表現力、コミュニケーション能力」が育成できると考えている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことを模造紙に表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

3 目 標

- 音楽の歴史の流れに関心をもち、様々な視点から鑑賞する学習に主体的に取り組もうとする。
- 音楽を形づくっている要素や雰囲気を知覚、感受しながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解し、解釈や価値づけをしながら鑑賞することができる。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
① 音色、テクスチャや構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。
② 音楽の特徴とその背景となる文化・歴史に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	

5 指導計画（全4時間）

過程	次	学習内容 (時数)	評 価			
			関	鑑	評価規準	評価方法
情報収集	1	楽器やテクスチャといった音楽の捉え方を学ぶ。西洋音楽を4つに時代分けし、その特徴を2つの視点で整理し、他の芸術とも関わらせて学ぶ。(2時間)	◎		◎音楽の特徴とその背景となる文化・歴史に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(関②)	・ワークシート ・授業発表

整理・分析、表現	2	5曲を鑑賞し、それぞれに合うCDジャケットを選び、時代順に並び替える。(1時間) 【本時】	○ ◎	◎音色，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。 (鑑①) ○音色，テクスチュアや構造と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(関①) 【表現力・コミュニケーション能力】	【ワークシート】 【討議の様子】 ・授業発表 ・まとめ
実践・振り返り	3	日本音楽の歴史を西洋音楽の歴史と比較しながら学ぶ。日本独特の文化や文明開化後の音楽の発展を日本史と関連させながら学ぶ。(1時間)	◎	◎音色，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。 (鑑①) 【情報活用能力】	【ワークシート】 ・授業発表

6 本時の展開

(1) 本時の目標

5曲の音楽の要素や特徴を知覚・感受することにより，その曲の背景となる歴史や美術と関連づけて理解し，鑑賞することができる。

(2) 評価規準

- 音色，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や美術と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。(鑑賞の能力)
- 音色，テクスチュアや構造と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)

(3) 準備物

ワークシート，イヤホン(各自)，CDデッキ9台，イヤホン splitter 9つ

(4) 学習の流れ(3時間目/全4時間)

学習活動	指導上の留意事項(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 〔観点〕(評価方法)	
1 課題意識をもつ ・前回学んだ楽器，テクスチュアの特徴を表で確認する。 ・1～5の曲を2回ずつ聴き，音楽の特徴をとらえ，ワークシートに記録する。	◇前時に学んだ4つの時代の特徴の表を模造紙で示す。		
	楽器	テクスチュア	
	バロック以前	パイプオルガンやチェンバロ	一本の旋律から多声音楽の発展
	古典派	オーケストラの成立 フォルテピアノに進化	機能と和声の成立 ⇒すっきり
	ロマン派	ピアノの発展 様々な演奏形態の発展	機能と和声の発展 ⇒あいまい
	近現代	楽器の発展 電子音楽の開発	機能と和声の崩壊，不協和音 ⇒ごちゃごちゃ

	<p>◇1 「トルコ行進曲 (モーツァルト)」 2 「ノクターン第2番 (ショパン)」 3 「プリペアドピアノのためのソナタ (ケージ)」 4 「小フーガト短調 (バッハ)」 5 「ライディーン (YMO)」</p> <p>「楽器」「テクスチュア」についての特徴を聴きとらせる中で、その他の特徴や感じたことをワークシートに書かせる。</p> <p>◇1～5の曲に対応したA～EのCDジャケットを黒板に貼り、学習課題を提示する。</p>	
--	---	--

学習課題：1～5の楽曲に合うCDジャケットを見つけよう！

	◇この学習課題のねらいを説明する。	
--	-------------------	--

(ねらい)鑑賞した楽曲の特徴を、その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解できる

<p>2 個人で予想する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャケットの印象を書く。 ・1～5の曲がCDジャケットA～Eのどれと合うかを予想する。 ・予想したものを全体で発表する。 	<p>◇ワークシートの記録をもとに、曲に合うCDジャケットを選ばせる。</p> <p>◆「テクスチュア」は聴きとりづらいことが予想されるので、あくまで個人的な感覚でとらえさせる。(あいまい、ごちゃごちゃなど)</p> <p>◇3～4人に発表させ、グループ検討の意識づけを行う。</p>	
---	--	--

予想される考え

- ・Cは現代っぽくて、曲は3がごちゃごちゃしていて現代の曲に聞こえるから3→C
- ・Eは貴族みたいな感じで、曲は1がすっきりしたチェンバロで古典派と考えられるから1→E

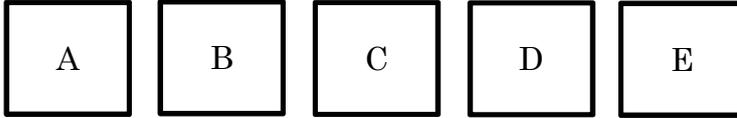
<p>3 4人グループで討議する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～5の曲を班ごとにデッキとイヤホンで聴きながら討議し、CDジャケットA～Eと組み合わせる。 	<p>◇4人が同時にイヤホンで曲を聴けるようにする。</p> <p>◇班ごとに個人で考察した内容について4人班で討議させる。</p> <p>◇必ず自分の意見を発表し、全員の意見が出た上での討議の結果を尊重するよう指導する。</p> <p>◆話し合いに参加できていない生徒のワークシートから「こういうこと書いてあるよ」「これも参考になりそうだね」と意見を拾って出せるように机間指導を行う。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>↑イヤホンブリッター</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・音色、テクスチュアや構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしてい
---	---	---

<p>4 討議の結果をまとめ、発表する</p> <p>5 解答を確認する</p>	<p>◇討議の結果を教師が模造紙にまとめ、気になるところの理由を聞いて深める。</p> <p>◇ワークシートのメモ欄に気づかなかった特徴や意見、疑問点をどんどん書き込むよう指示をする。</p>	<p>る。〔音楽への関心・意欲・態度〕（机間指導）</p>
<p>6 本時のまとめをする</p>	<p>◇必ずしも美術的なジャケットというわけではないことを補足説明する。</p> <p>◇ワークシート上で予想することができたか、相手に分かりやすく伝えることが出来たかを振り返らせる。</p> <p>◇家庭学習の課題を出す。お気に入りの1曲について、時代背景の特徴や音楽の特徴について紹介文を書かせる。</p>	<p>・音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。</p> <p>〔鑑賞の能力〕（ワークシート）</p>
<p>7 本時を振り返り、次時につなげる</p>	<p>◇ワークシート上で予想することができたか、相手に分かりやすく伝えることが出来たかを振り返らせる。</p> <p>◇家庭学習の課題を出す。お気に入りの1曲について、時代背景の特徴や音楽の特徴について紹介文を書かせる。</p>	<p>生徒のまとめ例</p> <p>4の曲はパイプオルガンで演奏されていて、壮大な感じがした。パイプオルガンが使われているということはバロックの作品で、教会で演奏されていたものだと思う。Aのジャケットにパイプオルガンみたいな絵があった。</p>
<p>【評価】（ワークシート）</p> <p>A：観点について表中の言葉以上に具体的に捉えている、時代の特徴をより詳しく捉えている。</p> <p>「例 1の曲はこれまでに聴いたことのなかった楽器で演奏されていた。フォルテピアノという楽器で、ピアノのもとになった楽器だった。ピアノとバロック時代のチェンバロを合わせたような音色だった。しかし伴奏がずっと同じような感じだったから古典派の曲ではないかと感じた。またBのジャケットにはかつらをかぶった貴族が描かれており、古典派の時代のものであるため1とBが一致する。」</p> <p>B：楽器かテクスチャについて表中の言葉を使って説明している、曲の特徴と時代の特徴を関わらせている。</p> <p>「例 4の曲はパイプオルガンで演奏されていて、壮大な感じがした。パイプオルガンが使われている</p>		

(5) 板書計画

ねらい 鑑賞した楽曲の特徴を、その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解しよう

学習課題 1～5の楽曲に合うジャケットを見つけよう！



まとめ 音楽は歴史の中で、美術と関わりあいながら発展してきた。

CDジャケットは音楽の歴史的な特徴を反映している。

振り返り

～西洋音楽史プリント③～

3年()組()番 名前()

1 ①～⑤の各曲を聴いて、それぞれの音楽の特徴を書き取りましょう。

	楽器	テクスチャ	その他
①			
②			
③			
④			
⑤			

♪ First Impression ♪

A	D
B	E
C	

2 ①～⑤の各曲にあてはまるA-Eを書き取りましょう。

	子 題	選 曲
①		
②		
③		
④		
⑤		

3 班の手帳をひらき、今一度書き取り直しをしましょう。

	子 題	選 曲
①		
②		
③		
④		
⑤		

<本日のまとめ>

<本日の振り返り>

- 音楽の特徴を、その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解できた。(A B C)
- 音楽の新たな聴き方を習得することができた。(A B C)